

【プレゼンテーション資料】

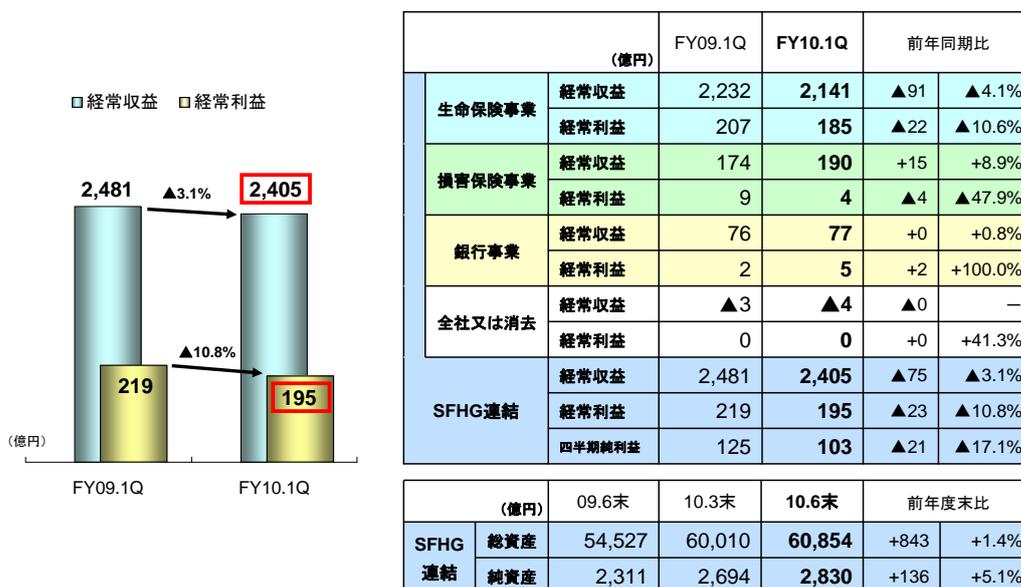
2010年度 第1四半期 連結業績のご説明

ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社
2010年8月12日

免責事項:

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況などに関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されません。口頭または書面による見通し情報は、現在入手可能な情報から得られた当社グループの経営者の判断にもとづいています。実際の業績は、様々なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しに依拠することは控えるようお願いします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常に当社グループが将来の見通しを見直すとは限りません。また、このプレゼンテーション資料は日本国内外を問わず一切の投資勧誘またはそれに類する行為のために作成されたものではありません。

連結業績ハイライト



※金額は単位未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

2

当社グループの連結経常収益は、損害保険事業が堅調に増加したものの、銀行事業でほぼ横ばい、生命保険事業で減少した結果、前年同期に比べ**3.1%**減少し、**2,405**億円となりました。

連結経常利益は、生命保険事業と損害保険事業において減益となり、前年同期に比べ**10.8%**減少し、**195**億円となりました。

以上の結果、連結四半期純利益は、前年同期に比べ**17.1%**減少し、**103**億円となりました。

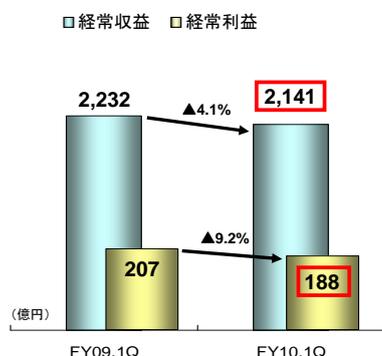
次のスライド3には、各事業ごとの業績の要旨をまとめておりますのでご覧ください。

続きまして、スライド4から、各事業を担う3社の業績の詳細をご説明します。

連結業績ハイライト

- 生命保険事業では、新契約高の順調な伸長、および保有契約高の堅調な推移により保険料等収入が増加したものの、金融市場環境の悪化にともない特別勘定資産の運用益が運用損に転じたことにより、経常収益は減少。経常利益は、一般勘定資産の運用益が増加したものの、特別勘定資産の運用損益の悪化にともない変額保険の最低保証に係る責任準備金が戻入から繰入に転じたことなどにより減少。
- 損害保険事業では、自動車保険を中心に保有契約件数が増加し、正味収入保険料が増加したことにより、経常収益は増加。経常利益は、経常収益が増加したものの、自動車保険の支払保険金が増加したことにより減少。
- 銀行事業では、経常収益はほぼ横ばいで推移。業務粗利益は、主に住宅ローン残高の増加による貸出金利息の増加、および市場運用業務の損益改善により増加。営業経費は、主にシステム関連費用を中心に増加。以上の結果、経常利益は増加。
- 連結経常収益は、前年同期比3.1%減少の2,405億円。連結経常利益は、前年同期比10.8%減少の195億円。連結四半期純利益は、前年同期比17.1%減少の103億円。

ソニー生命 業績ハイライト(単体)



- ◆前年同期比 減収減益。
- ◆保有契約高の堅調な推移により保険料等収入が増加
- ◆資産運用収益は減少。
- ◆経常利益は、保険料等収入が増加し、一般勘定資産の運用益も増加したものの、特別勘定資産の運用損益の悪化にともない変額保険の最低保証に係る責任準備金が入入から繰入に転じたことなどにより減少。

(億円)	FY09.1Q	FY10.1Q	前年同期比	
経常収益	2,232	2,141	▲91	▲4.1%
保険料等収入	1,659	1,826	+167	+10.1%
資産運用収益	565	303	▲262	▲46.4%
うち利息及び配当金等収入	157	205	+48	+30.8%
うち金銭の信託運用益	41	23	▲18	▲44.1%
うち有価証券売却益	66	74	+8	+12.1%
うち特別勘定資産運用益	288	—	▲288	▲100.0%
経常費用	2,024	1,952	▲71	▲3.6%
保険金等支払金	668	677	+9	+1.4%
責任準備金等繰入額	1,032	672	▲359	▲34.8%
資産運用費用	62	329	+267	+427.5%
うち有価証券売却損	36	4	▲31	▲86.8%
うち特別勘定資産運用損	—	300	+300	—
事業費	231	238	+7	+3.3%
経常利益	207	188	▲19	▲9.2%
四半期純利益	118	101	▲16	▲13.9%

(億円)	09.6末	10.3末	10.6末	前年度末比	
有価証券残高	29,584	35,391	36,462	+1,070	+3.0%
責任準備金残高	36,948	39,856	40,521	+665	+1.7%
純資産額	1,588	1,913	2,052	+139	+7.3%
その他有価証券評価差額金	172	154	262	+107	+69.5%
総資産額	39,189	42,865	43,431	+565	+1.3%
特別勘定資産	3,129	3,736	3,494	▲241	▲6.5%

※金額は単位未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

4

まず、ソニー生命の、単体業績のハイライトをご説明します。

ソニー生命の経常収益は、新契約高の順調な増加、および保有契約高の堅調な推移により保険料等収入が増加したものの、金融市場環境の悪化にともない特別勘定資産の運用益が運用損に転じたことにより、前年同期に比べ**4.1%**減少し、**2,141**億円となりました。

保険料等収入は、保有契約高の増加にともない、前年同期に比べ**10.1%**増加し、**1,826**億円となりました。

資産運用収益は、超長期債の保有残高の増加にともない、利息及び配当金等収入は増加したものの、前述のとおり特別勘定の資産運用状況が悪化したため、前年同期に比べ**46.4%**減少し、**303**億円となりました。

資産運用費用は、特別勘定資産の運用益が運用損に転じたことにより、前年同期に比べ**427.5%**増加し、**329**億円となりました。

経常利益は、一般勘定資産の運用益は増加したものの、特別勘定資産の運用損益の悪化にともない変額保険の最低保証に係る責任準備金が入入から、当第1四半期は繰入に転じたことなどにより、前年同期に比べ**9.2%**減少し、**188**億円となりました。

以上の結果、四半期純利益は、前年同期に比べ**13.9%**減少し、**101**億円となりました。

(次のスライドをご覧ください)

ソニー生命 主要業績指標(単体)



(億円)	FY09.1Q	FY10.1Q	増減率		
新契約高	9,322	10,653	+14.3%	◆ 「家族収入保険」の優良体・非喫煙者割引特別の販売が引き続き好調に推移したことなどにより、増加。	
解約・失効高	5,432	5,278	▲2.8%		
解約・失効率	1.67%	1.58%	▲0.09pt		
保有契約高	327,208	338,192	+3.4%	◆ 定期保険および変額保険を中心に保険商品全般の解約・失効率が前年同期に比べて低下したことにより、低下。	
新契約年換算保険料	160	181	+13.1%		
うち第三分野	39	41	+5.0%	◆ がん入院保険および生前給付保険などの販売好調により、増加。	
保有契約年換算保険料	5,528	5,824	+5.4%		
うち第三分野	1,283	1,350	+5.2%		
(億円)	FY09.1Q	FY10.1Q	増減率		
資産運用損益(一般勘定)	214	274	+28.2%	◆ 利息及び配当金等収入の増加などにより、増加。	
基礎利益	165	117	▲28.8%	◆ 保険料等収入および利息及び配当金等収入が増加したものの、変額保険の最低保証に係る責任準備金が戻入から繰入に転じたことなどにより、減少。	
逆ざや額	45	26	▲42.2%		
	09.6末	10.3末	10.6末	前年度末比	
ソルベンシー・マージン比率	2,264.3%	2,637.3%	2,810.0%	+172.7pt	◆ 有価証券含み益の増加などにより上昇。

(注) 新契約高、解約・失効高、解約・失効率、保有契約高、新契約年換算保険料、保有契約年換算保険料は、個人保険と個人年金保険の合計。解約・失効率は、復活契約を失効と相殺せずに算出している。

※金額は単位未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

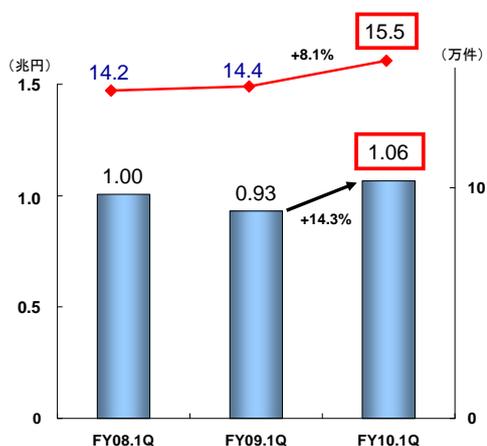
このスライドは、ソニー生命の主要業績指標について記載しています。

続きまして、次のスライド6をご覧ください。

ソニー生命の業績(1)

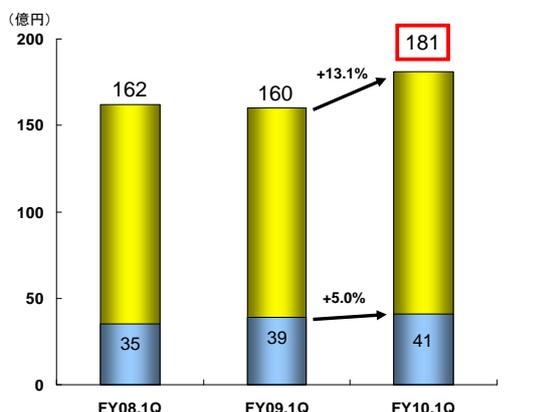
新契約高・件数 (個人保険+個人年金保険)

■新契約高 ◆新契約件数



新契約年換算保険料 (個人保険+個人年金保険)

■新契約年換算保険料 ■うち、第三分野



※新契約高は百億円未満切捨て、新契約年換算保険料は億円未満切捨て、件数は千件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

6

(左側のグラフ)

棒グラフで示しております、個人保険、個人年金保険を合計した新契約高は、前年同期に比べ**14.3%**増加し、**1兆600億円**となりました。

昨年**11月**に発売した「家族収入保険」の優良体・非喫煙者割引特則の販売が引き続き好調に推移しました。

また、折れ線グラフで示しております新契約件数は、前年同期に比べ**8.1%**増加し、**15万5,000件**となりました。

(右側のグラフ)

新契約年換算保険料は、がん入院保険および生前給付保険などの販売好調により、前年同期に比べ**13.1%**増加し、**181億円**となりました。

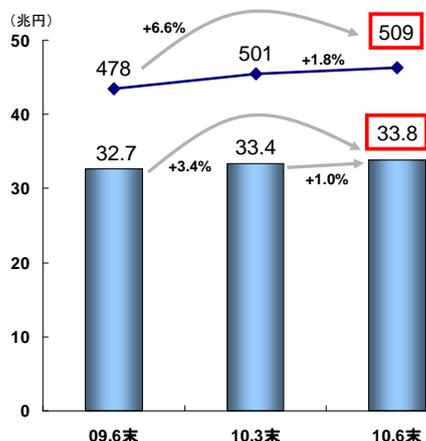
このうち、第三分野は、前年同期に比べ**5.0%**増加し、**41億円**となりました。

(次のスライドをご覧ください)

ソニー生命の業績(2)

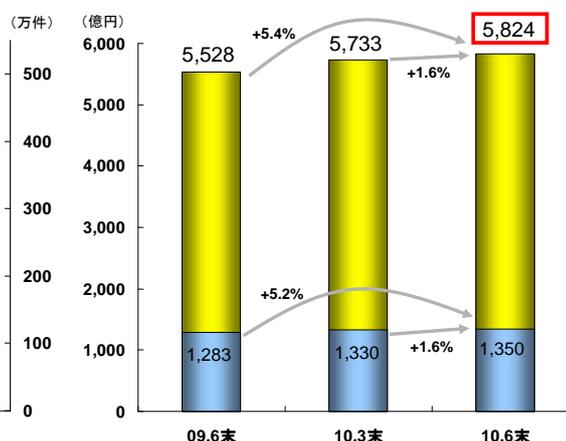
保有契約高・件数 (個人保険+個人年金保険)

■保有契約高 ◆保有契約件数



保有契約年換算保険料 (個人保険+個人年金保険)

■保有契約年換算保険料 ■うち、第三分野



※保有契約高は千億円未満切捨て、保有契約年換算保険料は億円未満切捨て、件数は万件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

(左側のグラフ)

棒グラフで示しております、個人保険、個人年金保険を合計した保有契約高は堅調に推移し、前年同期末に比べ**3.4%**増加、**2010年3月末**に比べ**1.0%**増加の、**33兆8,000億円**となりました。

折れ線グラフで示しております保有契約件数は、前年同期末に比べ**6.6%**増加、**2010年3月末**に比べ**1.8%**増加し、**509万件**となりました。

(右側のグラフ)

保有契約年換算保険料は、前年同期末に比べ**5.4%**増加、**2010年3月末**に比べ**1.6%**増加し、**5,824億円**となりました。

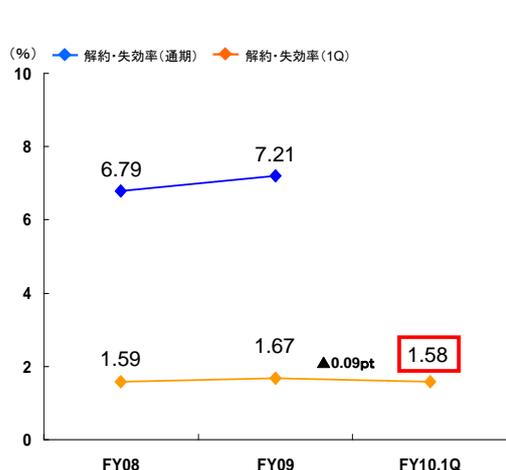
このうち、第三分野は、前年同期末に比べ**5.2%**増加、**2010年3月末**に比べ**1.6%**増加し、**1,350億円**となりました。

(次のスライドをご覧ください)

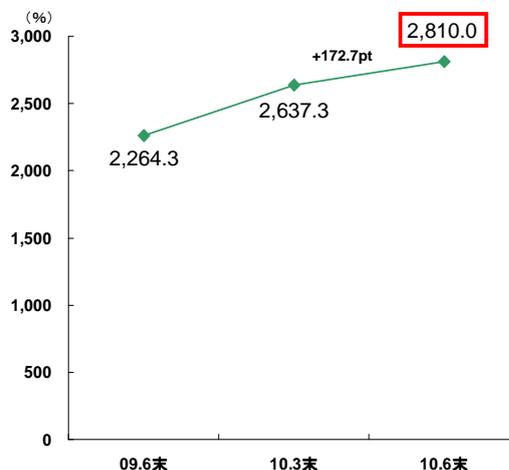
ソニー生命の業績(3)

解約・失効率* (個人保険+個人年金保険) ＜通期・第1四半期＞

* 解約・失効率は、復活契約を失効と相殺せずに算出



ソルベンシー・マージン比率



8

(左側のグラフ)

解約・失効率は、前年同期に比べ0.09ポイント低下し、1.58%となりました。

前年同期に景気低迷の影響から

定期保険および変額保険などの解約・失効率が上昇しましたが、当第1四半期においては、保険商品全般の解約・失効率が低下しました。

なお、昨年11月の「家族収入保険」の優良体・非喫煙者割引特則の発売による買い替えを機に上昇した解約・失効率は、前年度下半期に比べて低下傾向にあります。

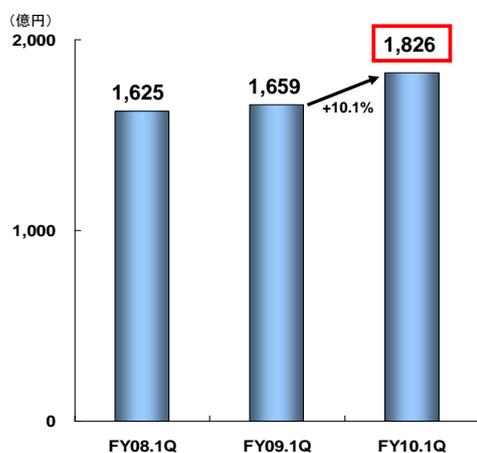
(右側のグラフ)

ソルベンシー・マージン比率は、2010年3月末に比べ172.7ポイント上昇し、2,810.0%となりました。

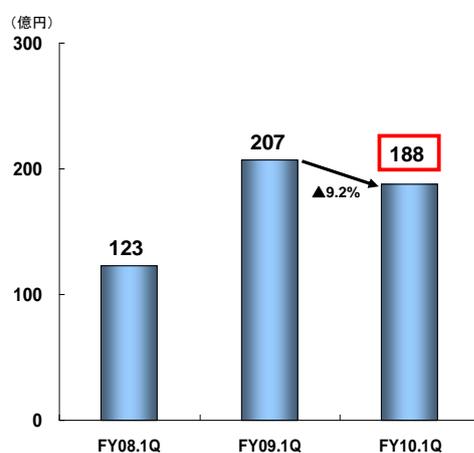
(次のスライドをご覧ください)

ソニー生命の業績(4)

保険料等収入



経常利益



※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

(左側のグラフ)

保険料等収入は、保有契約高の堅調な推移により、前年同期に比べ10.1%増加し、1,826億円となりました。

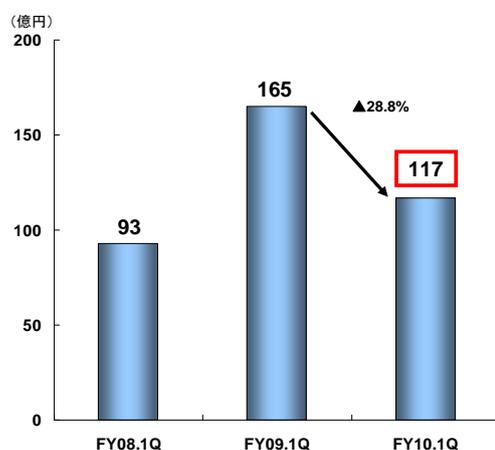
(右側のグラフ)

経常利益は、先のご説明のとおり、前年同期に比べ9.2%減少し、188億円となりました。

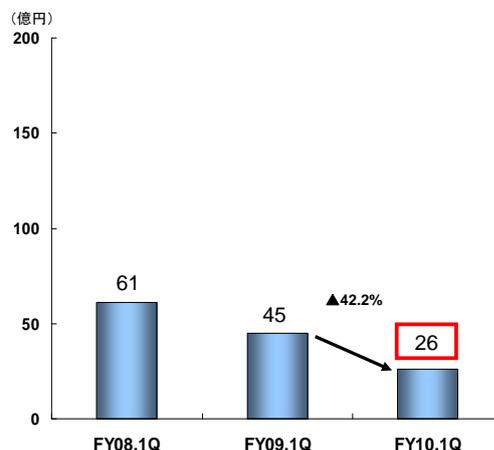
(次のスライドをご覧ください)

ソニー生命の業績(5)

基礎利益



逆ざや額



※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

(左側のグラフ)

基礎利益は、保険料等収入 および 利息及び配当金等収入が増加したものの、変額保険の最低保証に係る責任準備金が戻入から繰入に転じたことなどにより、前年同期に比べ**28.8%**減少し、**117**億円となりました。

(右側のグラフ)

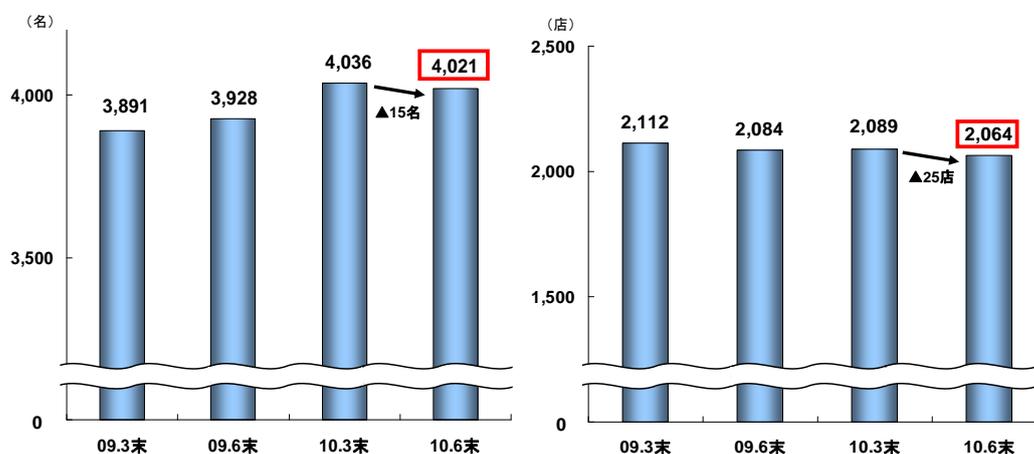
逆ざや額は、利息及び配当金等収入の増加にともない、前年同期に比べ**42.2%**減少し、**26**億円となりました。

(次のスライドをご覧ください)

ソニー生命の業績(6)

ライフプランナー在籍数

代理店数



11

(左側のグラフ)

2010年6月末時点のライフプランナー在籍数は、
2010年3月末時点から15名減少し、4,021名となりました。

これは主に、退職者の増加、および採用基準の見直しにともなう採用数の減少など
によるものです。

(右側のグラフ)

代理店数は、2010年3月末時点から25店減少し、2,064店となりました。

(次のスライドをご覧ください)

一般勘定資産の内訳【実質ベース】

(億円)

	10.3末		10.6末	
	金額	割合	金額	割合
公社債(除く転換社債)	33,104	84.6%	34,663	86.8%
転換社債	132	0.3%	—	—
株式	725	1.9%	635	1.6%
外国証券	752	1.9%	693	1.7%
約款貸付	1,275	3.3%	1,289	3.2%
不動産	799	2.0%	797	2.0%
現預金・コールローン	1,164	3.0%	875	2.2%
その他	1,174	3.0%	983	2.5%
合計	39,129	100%	39,937	100%

<資産運用状況>

■公社債: 当第1四半期…超長期債の購入を継続

【債券のDuration】

09.3末 13.6年
10.3末 17.6年
10.6末 18.0年

■転換社債: 2010年6月末時点で残高ゼロ

■株式: 2010年度は、2008年度に圧縮後の保有比率を維持

(注)1. ここでは、「金銭の信託」で運用されている有価証券(公社債、転換社債、株式等)を、各運用資産の分類ごとに合算して表示しているため、ソニー生命の発表資料『平成23年度第1四半期業績のご報告』の2ページ『(1)資産の構成』における保有区分とは一致しない。
2. 有価証券の保有区分ごとの内訳はスライド29を参照。

12

2010年3月末と比較した、2010年6月末の一般勘定資産の内訳はご覧のとおりです。

「金銭の信託」として運用されている有価証券を運用資産の分類ごとに合算した、実質ベースでの一般勘定資産の内訳を表示しています。

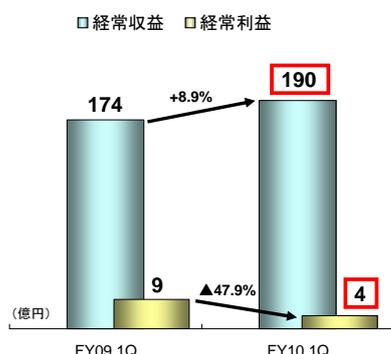
超長期債への投資を推進していることから公社債の比率が高まり、一方で、既に圧縮した株式についてはほぼ横ばいで推移、転換社債については2010年6月末時点の残高はゼロになっています。

2010年6月末の一般勘定資産の総額に占める公社債の割合は、86.8%です。

債券のデュレーションの長期化を進めた結果、2010年6月末のデュレーションは18.0年となっております。

(次のスライドから、ソニー損保の業績についてご説明します)

ソニー損保 業績ハイライト



- ◆前年同期比 増収減益。
- ◆経常収益は前年同期比8.9%増加の190億円。
自動車保険を中心に保有契約件数が増加し、
正味収入保険料が増加したことによる。
- ◆経常利益は前年同期比47.9%減少の4億円。
経常収益が増加したものの、自動車保険の
正味支払保険金が増加したことによる。

(億円)	FY09.1Q	FY10.1Q	前年同期比	
経常収益	174	190	+15	+8.9%
保険引受収益	173	188	+15	+9.0%
資産運用収益	1	1	+0	+5.0%
経常費用	165	185	+19	+12.0%
保険引受費用	126	143	+17	+13.8%
資産運用費用	0	—	▲0	▲100.0%
営業費及び一般管理費	39	41	+2	+6.3%
経常利益	9	4	▲4	▲47.9%
四半期純利益	6	2	▲3	▲53.1%

(億円)	09.6末	10.3末	10.6末	前年度末比	
責任準備金残高	538	581	613	+31	+5.5%
純資産額	144	154	157	+2	+1.9%
その他有価証券評価差額金	▲0	0	0	+0	+23.5%
総資産額	901	983	1,013	+30	+3.1%

※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー損保の経常収益は、前年同期に比べ**8.9%**増加し、**190億円**となりました。
これは主力の自動車保険を中心に保有契約件数が増加し、
正味収入保険料が増加したことによるものです。

経常利益は、経常収益が増加したものの、
事故発生率上昇の影響で自動車保険の保険金支払いが増加したことなどにより
前年同期に比べ**47.9%**減少し、**4億円**となりました。

この結果、四半期純利益は、前年同期に比べ**53.1%**減少し、**2億円**となりました。

(次のスライドをご覧ください)

ソニー損保 主要業績指標



(億円)	FY09.1Q	FY10.1Q	前年同期比
元受正味保険料	172	187	+8.6%
正味収入保険料	173	188	+9.0%
正味支払保険金	80	92	+15.6%
保険引受利益	7	3	▲58.1%
正味損害率	52.0%	55.2%	+3.2pt
正味事業費率	24.6%	23.9%	▲0.7pt
コンバインド・レシオ	76.5%	79.1%	+2.6pt

<主な増減要因>

- ◆ 自動車保険の保有契約件数の増加により順調に増加。
- ◆ 自動車保険の保有契約件数の増加および事故発生率の上昇の影響により増加。
- ◆ 保険引受に係る事業費が増加するも、正味収入保険料の増加により低下。

(注) 正味事業費率=保険引受に係る事業費÷正味収入保険料
正味損害率=(正味支払保険金+損害調査費)÷正味収入保険料

	09.6末	10.3末	10.6末	前年度末比	
保有契約件数	119万件	127万件	130万件	+3万件	+2.4%
ソルベンシー・マージン比率	1,020.1%	1,018.5%	1,029.7%	+11.2pt	

(注) 保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。両方で正味収入保険料の99%を占める。

※金額は億円未満切捨て、件数は万件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

このスライドは、ソニー損保の主要業績指標について記載しています。

次のスライド15には、元受正味保険料、正味収入保険料、正味支払保険金の種目別内訳を記載しておりますのでご覧ください。

続きまして、スライド16以降から詳細をご説明します。

ソニー損保 種目別保険引受の状況



元受正味保険料

(百万円)	FY09.1Q	FY10.1Q	増減率
火 災	71	31	▲56.4%
海 上	—	—	—
傷 害*	1,708	1,767	+3.4%
自 動 車	15,473	16,938	+9.5%
自 賠 責	—	—	—
合計	17,253	18,737	+8.6%

正味収入保険料

(百万円)	FY09.1Q	FY10.1Q	増減率
火 災	3	1	▲45.3%
海 上	2	3	+40.7%
傷 害*	1,780	1,824	+2.5%
自 動 車	15,415	16,871	+9.4%
自 賠 責	99	158	+59.9%
合計	17,301	18,860	+9.0%

正味支払保険金

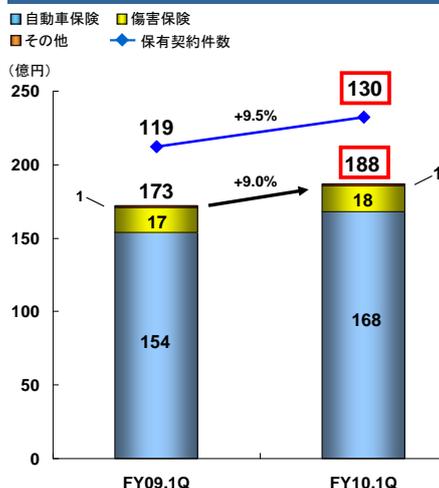
(百万円)	FY09.1Q	FY10.1Q	増減率
火 災	0	0	+49.7%
海 上	0	3	+260.8%
傷 害*	348	378	+8.5%
自 動 車	7,538	8,732	+15.8%
自 賠 責	126	153	+21.5%
合計	8,014	9,266	+15.6%

* 「傷害」にはガン重点医療保険SURE(シュア)が含まれる。

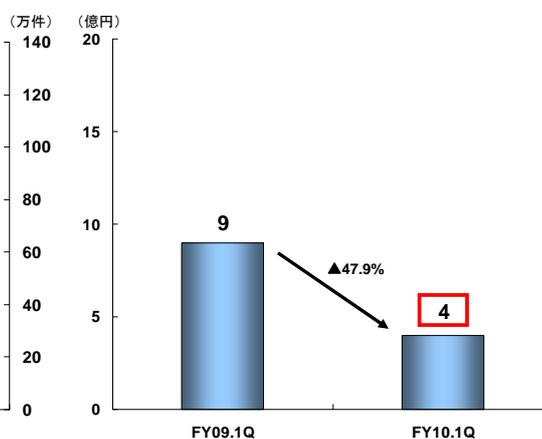
※金額は百万円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー損保の業績(1)

正味収入保険料と保有契約件数



経常利益



(注) 保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。
 両方で正味収入保険料の99%を占める。
 傷害保険の9割以上が、ガン重点医療保険である。

※金額は億円未満切捨て、件数は万件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

(左側のグラフ)

保有契約件数は順調に増加し、自動車保険とガン重点医療保険との合計で前年同期に比べ**9.5%**増加し、**130**万件となりました。

正味収入保険料は前年同期に比べ**9.0%**増加し、**188**億円となりました。

(右側のグラフ)

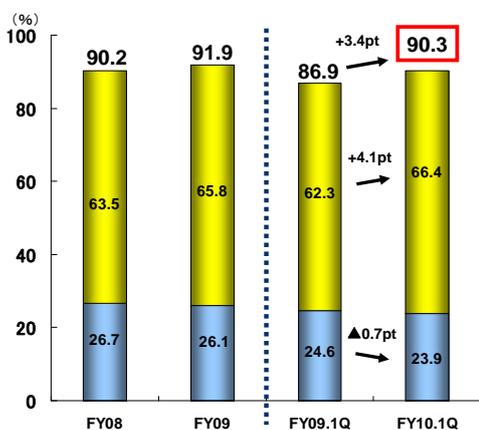
経常利益は、経常収益が増加したものの、自動車保険で保険金支払いが増加したことなどにより前年同期に比べ**47.9%**減少し、**4**億円となりました。

(次のスライドをご覧ください)

ソニー損保の業績(2)

正味事業費率+E.I.損害率

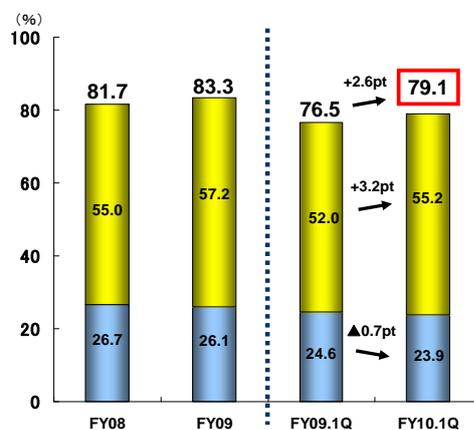
■正味事業費率 ■E.I.損害率



(注) 正味事業費率 = 保険引受に係る事業費 ÷ 正味収入保険料
 E.I.損害率 = (正味支払保険金 + 支払備金増額 + 損害調査費) ÷ 既経過保険料
 [除く地震保険、自賠責保険]

<参考> コンバインド・レシオ (正味事業費率+正味損害率)

■正味事業費率 ■正味損害率



(注) 正味事業費率 = 保険引受に係る事業費 ÷ 正味収入保険料
 正味損害率 = (正味支払保険金 + 損害調査費) ÷ 正味収入保険料

(左側のグラフ)

成長段階にあるソニー損保の実態をご理解いただくために、損害率を発生ベースでみた、スライドでE.I.損害率と記載しております、アード・インカード損害率 についてご説明します。

当第1四半期のアード・インカード損害率は、事故発生率の上昇などにより保険金支払いが増加したことにより、前年同期に比べ4.1ポイント上昇し、66.4%となりました。

また、正味事業費率は、正味収入保険料の増加と経費コントロールにより、前年同期に比べ0.7ポイント低下し、23.9%となりました。

(右側のグラフ)

正味損害率は、前年同期に比べ3.2ポイント上昇し、55.2%となりましたが、これは前述のとおり、主に保険金支払いが増加したことによるものです。

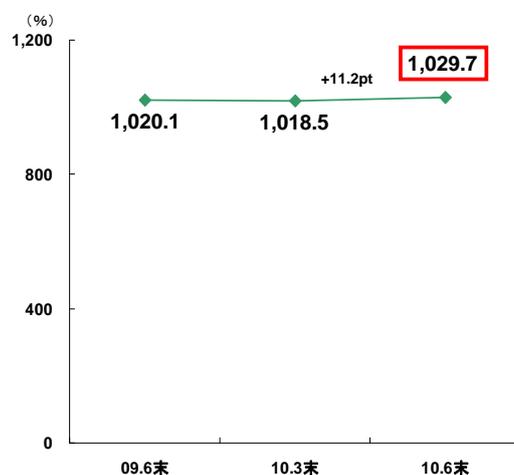
なお、正味損害率は、支払備金繰入額などを反映していない点で、アード・インカード損害率とは計算方法が異なります。

正味事業費率と正味損害率を合わせたコンバインド・レシオは、前年同期に比べ2.6ポイント上昇し、79.1%となりました。

(次のスライドをご覧ください)

ソニー損保の業績(3)

ソルベンシー・マージン比率

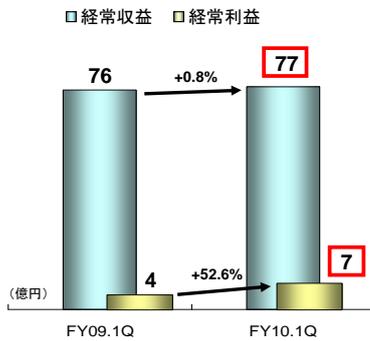


(注) 保険業法施行規則および大蔵省告示の規定に基づいて算出しており、09.6末および10.6末については、計算の一部を簡便化して算出している。

当第1四半期末のソルベンシー・マージン比率は、前年度末に比べ11.2ポイント上昇の1,029.7%となり、引き続き健全な水準を維持しています。

(次のスライドから、ソニー銀行の業績についてご説明します)

ソニー銀行 業績ハイライト(単体)



- ◆前年同期比 経常収益横ばい、経常利益は増益。
- ◆業務粗利益は、その他業務収支の増加により、前年同期比7億円増加。
【資金運用収支】貸出金利が増加したものの、住宅ローンのヘッジ目的で保有する金融派生商品の支払利息が増加したことなどにより、微減。
【その他業務収支】主に市場運用にかかる損益が改善したことから、8億円増加。
- ◆業務純益は、営業経費が前年同期比4億円増加するも、2億円の増加。
- ◆預かり資産残高は前年度末比29億円増加。うち預金残高は70億円の増加。

(億円)	FY09.1Q	FY10.1Q	前年同期比	
経常収益	76	77	+0	+0.8%
業務粗利益	32	40	+7	+24.0%
資金運用収支	32	31	▲0	▲2.5%
役務取引等収支	0.3	0.6	+0.2	+69.4%
その他業務収支	▲0.1	8	+8	—
営業経費	27	31	+4	+16.1%
経常利益	4	7	+2	+52.6%
四半期純利益	2	3	+0	+32.4%
業務純益	5	8	+2	+52.4%

(億円)	09.6末	10.3末	10.6末	前年度末比	
有価証券残高	8,078	8,801	9,030	+229	+2.6%
貸出金残高	5,108	5,866	6,009	+142	+2.4%
預金残高	13,309	15,100	15,171	+70	+0.5%
預かり資産残高	14,237	16,100	16,130	+29	+0.2%
純資産額	532	589	582	▲7	▲1.3%
その他有価証券評価差額金	▲31	9	10	+1	+14.3%
総資産額	14,386	16,121	16,373	+251	+1.6%

※金額は億円未満切捨て(役務取引等収支、その他業務収支を除く)、増減率は四捨五入で表示

ソニー銀行単体の経常収益は、住宅ローン残高の増加により利息収入が増加したこと、および市場運用収益が増加したことにより、前年同期に比べ**0.8%**増加し、**77億円**となりました。

業務粗利益は、前年同期に比べ**24.0%**増加し、**40億円**となりました。

これは主に、前年同期において発生したヘッジ目的で保有している金融派生商品の評価損が当第1四半期においては発生しなかったことなどにより、その他業務収支が増加したことによるものです。

また、営業経費は、システム関連費用等の増加により前年同期に比べ**16.1%**増加し、**31億円**となりました。

以上の結果、経常利益は、前年同期に比べ**52.6%**増加し、**7億円**となりました。

四半期純利益は、経常利益が増加したことにより前年同期に比べ**32.4%**増加し、**3億円**となりました。

(次のスライドをご覧ください)

ソニー銀行 主要業績指標(単体)①



(億円)	09.6末	10.3末	10.6末	前年度末比	
預かり資産残高	14,237	16,100	16,130	+29	+0.2%
預金	13,309	15,100	15,171	+70	+0.5%
円預金	10,327	11,849	11,891	+41	+0.4%
外貨預金	2,982	3,250	3,279	+29	+0.9%
投資信託	927	1,000	959	▲40	▲4.1%
貸出金残高	5,108	5,866	6,009	+142	+2.4%
住宅ローン	5,023	5,551	5,624	+73	+1.3%
その他	85	315	384 ^{*1}	+69	+21.9%
口座数	73.6万件	79.6万件	80.9万件	+1.2万件	+1.6%
自己資本比率 (国内基準)^{*2}	13.41%	12.09%	12.20%	+0.11pt	

<主な増減要因>

◆ 預かり資産残高は2010年3月末比29億円増加。このうち預金残高については70億円増加。外貨預金残高は、円高進行による円換算の影響があるものの29億円増加。

◆ 投資信託は、基準価額の下落の影響もあり残高が減少。

◆ 貸出金残高は、住宅ローン残高の伸びに加え、シンジケート・ローンを中心とした法人向け貸出の増加により、増加。

*1 うち302億円は法人向け

*2 スライド24の自己資本比率(国内基準)の推移参照

※金額は億円未満切捨て、件数は千件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

このスライドは、ソニー銀行の主要業績指標について記載しています。

(次のスライドをご覧ください)

ソニー銀行 主要業績指標(単体)②

■<参考>社内管理ベース

(億円)	FY09.1Q	FY10.1Q	前年同期比	
業務粗利益	32	40	+7	+24.0%
資金収支 ^{*1} ①	33	34	+1	+3.7%
手数料等収支 ^{*2} ②	3	4	+0	+9.0%
その他収支 ^{*3}	▲4	1	+6	-
コアベース業務粗利益 (A) = ①+②	37	39	+1	+4.2%
営業経費等^③	27	32	+5	+18.3%
コアベース業務純益 = (A)-③	10	6	▲3	▲33.9%

●社内管理ベース

損益の実態をより適切に表すよう、財務会計ベースに以下の調整を加えたもの

*1 資金収支…資金運用収支+その他業務収支に計上されている実質的な資金運用にかかる損益(為替スワップ収益等)

*2 手数料等収支…役務取引等収支+その他業務収支に計上されているお客さまとの外貨売買取引にかかる収益

*3 その他収支…その他業務収支より*1と*2の調整を控除したものの主な内容は債券関係損益およびデリバティブ関連損益

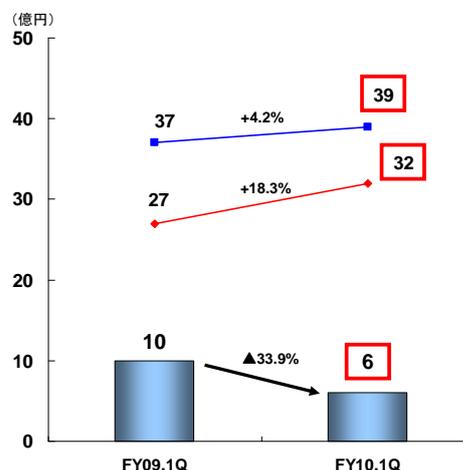
●コアベース

社内管理ベースのその他収支(主に債券関係損益およびデリバティブ関連損益)を除いたもので、ソニー銀行の基礎的な収益を表すもの

<参考>

コアベース業務粗利益、営業経費等、コアベース業務純益

■ コアベース業務純益 ■ コアベース業務粗利益
◆ 営業経費等



※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

21

このスライドでは、本業の収益力をより適切にご理解いただけるよう、社内管理ベースの業務粗利益の内訳についてご説明します。

(左側のテーブル)

資金収支は、主に住宅ローンの増加により受取利息が増加したことにより、前年同期に比べ1億円増加し、34億円となりました。

手数料等収支は、主に外国為替証拠金取引関連の手数料収入の増加等により、前年同期に比べ0.3億円増加し、4億円となりました。

その他収支においても、前年同期において発生したヘッジ目的で保有している金融派生商品の評価損が、当第1四半期においては発生しなかったことにより、前年同期の4億円の損失から、当第1四半期は1億円の利益を計上しました。

その結果、資金収支および手数料等収支からなる、銀行の本源的な収益動向を表すコアベースの業務粗利益は、前年同期に比べ1億円増加し、39億円となりました。

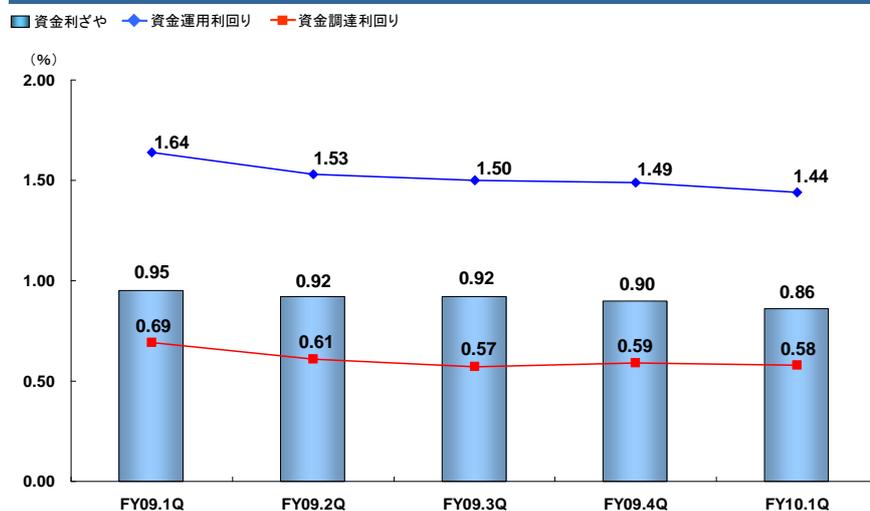
(右側のグラフ)

コアベースでの業務純益は、営業経費等の増加により、前年同期に比べ3億円減少し、6億円となりました。

(次のスライドをご覧ください)

ソニー銀行の業績(1)

<参考> 資金利ざやの推移(社内管理ベース)



(注) 資金利ざや = 資金運用利回り - 資金調達利回り
資金運用利回りには、その他業務収支に計上されている為替スワップ損益等が含まれている。

社内管理ベースの資金利ざやについてご説明します。

世界的な金利低下を受けて、青い折れ線グラフで示しております
資金運用利回りは、当第1四半期においては若干低下しました。

赤い折れ線グラフで示しております資金調達利回りは横ばいで推移しております。

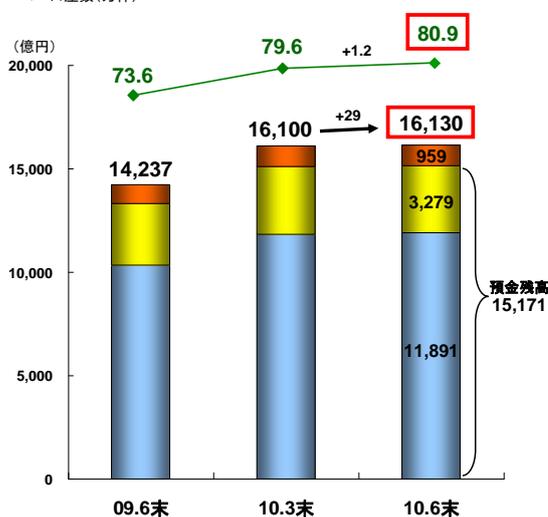
その結果、棒グラフで表示しております資金利ざやは**0.86%**となりました。

(次のスライドをご覧ください)

ソニー銀行の業績(2)

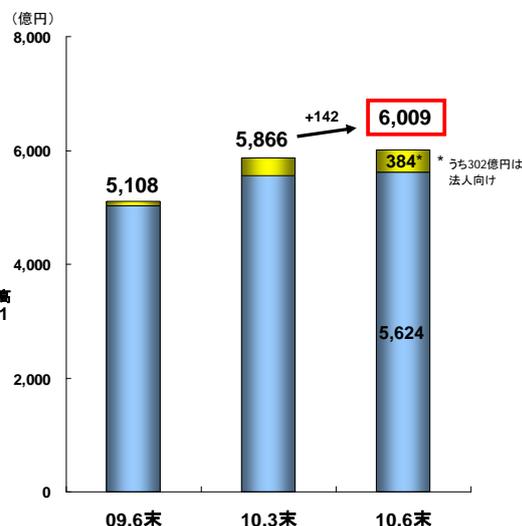
預かり資産残高(預金+投資信託)および口座数

■円預金 ■外貨預金 ■投資信託
◆口座数(万件)



貸出金残高

■住宅ローン ■その他



※金額は億円未満切捨て、件数は千件未満切捨てで表示

業容の推移についてご説明します。

(左側のグラフ)

当第1四半期末の預金と投資信託を合わせた預かり資産残高は、2010年3月末に比べ29億円増加し、1兆6,130億円となりました。

預金残高は、2010年3月末に比べ70億円増加し、1兆5,171億円となりました。

このうち、外貨預金の残高は、円換算の際に使用する為替レートが大きく円高にふれたものの、29億円の増加となりました。

投資信託は、2010年3月末に比べ40億円減少し、959億円となりました。

また、口座数は1万2千件増加し、80万9千件となりました。

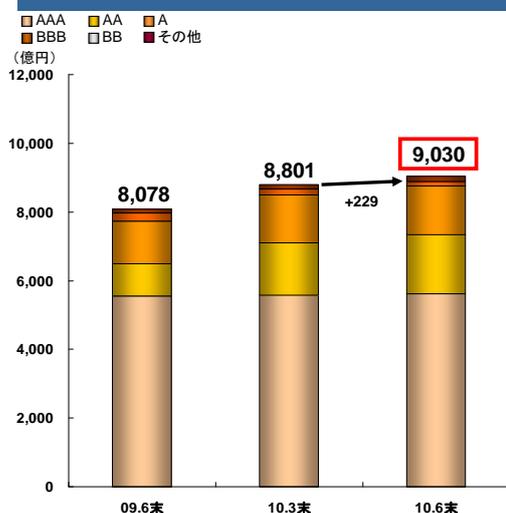
(右側のグラフ)

貸出金残高については、住宅ローンおよび法人向け貸出の積みあがりにより、2010年3月末に比べ142億円増加し、6,009億円となりました。

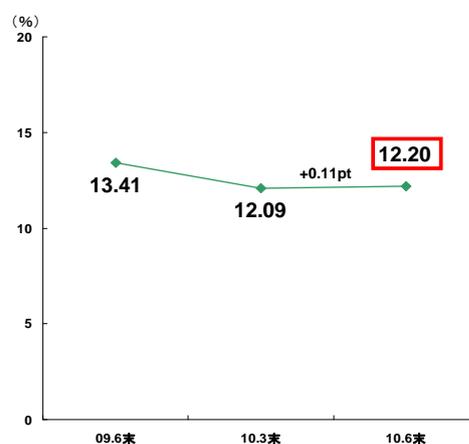
(次のスライドをご覧ください)

ソニー銀行の業績(3)

格付別の有価証券残高の推移



自己資本比率(国内基準)の推移



(注) 平成18年金融庁告示第19号「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準」に基づき算出している。なお、平成21年3月期第3四半期会計期間より「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第19号)の特例(平成20年金融庁告示第79号)」を適用している。

※金額は億円未満切捨てで表示

(左側のグラフ)

2010年6月末の有価証券残高は、2010年3月末に比べ229億円増加し、9,030億円となりました。

引き続き、高格付の債券を中心に運用しております。

(右側のグラフ)

自己資本比率は、2010年3月末に比べ0.11ポイント上昇して12.20%となり、引き続き健全な財務基盤を維持しております。

以上で、各事業を担う3社の業績の詳細のご説明を終わります。

次のスライドをご覧ください。

2010年度連結業績予想

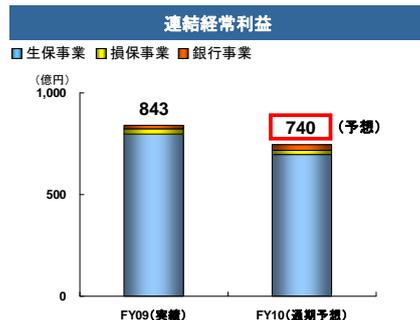
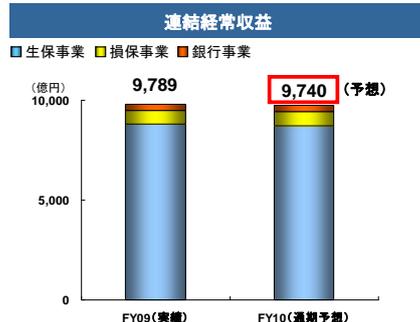
(億円)	FY09	FY10 (中間期予想)	FY10 (通期予想)	増減率 FY09 vs FY10(通期)
連結経常収益	9,789	4,830	9,740	▲0.5%
うち生命保険事業	8,820	4,321	8,713	▲1.2%
うち損害保険事業	681	365	727	+6.6%
うち銀行事業	305	148	306	+0.3%
連結経常利益	843	410	740	▲12.3%
うち生命保険事業	797	396	696	▲12.8%
うち損害保険事業	25	7	22	▲14.2%
うち銀行事業	19	12	28	+45.2%
連結当期純利益	481	230	400	▲16.9%

(注)1. 実績値の金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示
2. 中間期・通期ともに2010年5月13日に公表した数値から変更なし

■生命保険事業
保有契約高が堅調に推移し保険料等収入が増加すると見込み一方で、金融市場環境の回復の影響を受けた2009年度に対し、資産運用収益の減少を見込んでいることから、経常収益は若干の減少を見込む。経常利益は、保有有価証券の売却益の減少および保険金等の支払の増加が見込まれることなどから、減少を見込む。

■損害保険事業
主力の自動車保険を中心に業容が順調に拡大すると見込み、経常収益は増加を見込む。経常利益は、前述の増加はあるものの、損害率の上昇や規模拡大を前提に体制・基盤を強化することによる事業費率の上昇などから、減少を見込む。

■銀行事業
世界的な金利低下の影響は残るものの、業容拡大にともない資金運用収益が増加することが見込まれることから、経常収益は若干の増加を見込む。経常利益は、資金運用収支を中心に業務粗利益が増加すると見込むことから、増加を見込む。



2010年度の連結業績予想について、ご説明いたします。

中間期・通期ともに、2010年5月13日に公表した数値から変更はありません。

各事業ともに業容を順調に拡大していくと見込んでいるものの、生命保険事業において金融市場環境の回復の影響を受けた2009年度に対し、当年度は資産運用収益の減少を見込んでいることを主な要因として、連結経常収益は若干の減少を見込みます。

連結経常利益は、主に生命保険事業において保有有価証券の売却益の減少および保険金等の支払いの増加が見込まれることなどから、減少を見込みます。

以上

補足情報

その他トピックス①

ソニーライフ・エイゴン生命の営業動向

営業開始：2009年12月1日

資本金：200億円(資本準備金100億円を含む)

株主：ソニー生命 50%、エイゴン・インターナショナルB.V. 50%

取扱商品：「ウイニングロード(変額個人年金保険 受取総額保証型)」、「マイヒストリー(変額個人年金保険 受取総額保証型)」
および「ヴィクトリーラン(変額個人年金保険 年金原資保証型)」

販売チャネル：ライフプランナーおよび銀行(東京スター銀行、三井住友銀行、みなと銀行、福島銀行、千葉興業銀行) ※2010年8月12日現在

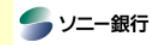
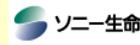
販売状況：2010年度第1四半期の実績・・・新契約件数:171件、新契約高:1,555百万円
(2010年度第1四半期末・・・保有契約件数:636件、保有契約高:8,278百万円)



ソニー銀行における、ソニー生命による住宅ローンの取り扱い状況

■2010年度第1四半期の住宅ローン新規融資実行金額の45%

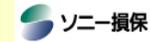
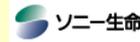
※銀行代理業務取り扱い開始：2008年1月



ソニー損保における、ソニー生命による自動車保険取り扱い状況

■2010年度第1四半期の新規自動車保険契約件数の約5%

※自動車保険取り扱い開始：2001年5月



<2010年度第1四半期以降の主な取り組み>

- 2010年 4月 1日 ソニーライフ・エイゴン生命、みなと銀行を代理店とする変額個人年金保険の販売を開始
ソニー銀行、近鉄不動産㈱との提携住宅ローンを開始
- 2010年 4月12日 ソニー損保、横浜銀行を通じた自動車保険の販売を開始
- 2010年 4月19日 ソニーライフ・エイゴン生命、福島銀行を代理店とする変額個人年金保険の販売を開始
- 2010年 5月 1日 ソニー生命、地域密着のサービス拡大を目指して、山形県に営業拠点を新設
ソニー損保、多摩信用金庫を通じた自動車保険の販売を開始
ソニー生命、100%子会社、㈱リブラの営業を開始、来店型店舗『LIPLA』第1号店をオープン
- 2010年 6月24日 ソニー銀行、初の対面相談窓口として「住宅ローンプラザ」をオープン
- 2010年 7月12日 ソニーライフ・エイゴン生命、千葉興業銀行を代理店とする変額個人年金保険の販売を開始
- 2010年 7月26日 ソニー銀行、「外貨宅配」サービス開始

ソニー生命の保有する有価証券の時価情報



有価証券の時価情報

売買目的有価証券を除く有価証券の時価情報のうち、時価のあるもの

(億円)

区分	09.6末			09.9末			09.12末			10.3末			10.6末		
	帳簿価額	時価	差損益	帳簿価額	時価	差損益									
満期保有目的の債券	16,413	16,437	24	17,776	17,824	48	20,074	19,995	▲79	22,756	22,551	▲204	24,779	26,286	1,507
その他有価証券	14,722	15,168	446	14,184	14,706	521	13,059	13,582	523	11,265	11,669	404	10,398	10,978	580
公 社 債	13,529	13,872	342	13,250	13,699	449	12,168	12,620	452	10,815	10,900	84	9,738	10,303	565
(うち転換社債)	2,104	2,023	▲80	1,596	1,568	▲27	775	784	9	136	132	▲3	-	-	-
株 式	569	694	115	407	484	77	516	581	65	517	621	104	519	532	12
外 国 証 券	549	528	▲20	474	480	▲6	323	316	▲7	80	80	▲0	20	20	0
そ の 他 の 証 券	74	83	9	51	81	30	51	63	12	51	67	16	119	121	2
合 計	31,135	31,605	470	31,962	32,530	568	33,134	33,578	443	34,021	34,221	200	35,178	37,265	2,087

売買目的有価証券の評価損益

(億円)

09.6末		09.9末		09.12末		10.3末		10.6末	
BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益
47	53	7	56	3	56	-	57	-	-

(注) 上記の売買目的有価証券は、「金銭の信託」に含まれているものも含む。

※金額は億円未満切捨てて表示

ソニー生命の純資産(指標別)の明細



純資産(BS上)／実質資産負債差額／ソルベンシー・マージン

	①純資産(BS上)		②実質資産負債差額		③ソルベンシー・マージン		備考	
	(億円)	10.3末	10.6末	10.3末	10.6末	10.3末		10.6末
株主資本合計		1,773	1,805	1,773	1,805	1,703	1,799	③社外流出予定額控除後
その他有価証券評価差額金		154	262	154	262	—	—	
その他有価証券の含み損益		—	—	—	—	330	484	③税引前の90%
土地再評価差額金		▲14	▲14	▲14	▲14	—	—	
価格変動準備金		—	—	96	112	96	112	
危険準備金		—	—	484	492	484	492	
一般貸倒引当金		—	—	—	—	0	0	
土地の含み損益		—	—	26	26	16	16	②税引前(再評価後) ③税引前(再評価前)の85%
全期テメル式責任準備金 相当額超過額		—	—	3,165	3,193	3,165	3,193	
配当準備金未割当部分		—	—	23	27	23	27	
将来利益		—	—	—	—	10	10	
税効果相当額		—	—	—	—	472	529	
満期保有債券の含み損益		—	—	▲204	1,507	—	—	②税引前
その他有価証券に係る 繰延税金負債		—	—	128	192	—	—	
合計		1,913	2,052	5,634	7,605	6,302	6,666	

(注)「②実質資産負債差額」において、満期保有・責任準備金対応債券の含み損益を含まない場合の合計値は、10.3末:5,838億円、10.6末:6,098億円。

※金額は億円未満切捨てて表示

ソニー生命のソルベンシー・マージン比率の推移



(億円)					
項目	09.6末	09.9末	09.12末	10.3末	10.6末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	5,724	6,007	6,256	6,302	6,666
資本金等	1,430	1,529	1,633	1,703	1,799
価格変動準備金	50	63	79	96	112
危険準備金	462	469	478	484	492
一般貸倒引当金	0	0	0	0	0
その他有価証券の評価差額×90%(マイナスの場合100%)	347	416	430	330	484
土地の含み損益×85%(マイナスの場合100%)	48	48	48	16	16
全期テレル式責任準備金相当額超過額	3,055	3,094	3,128	3,165	3,193
配当準備金未割当部分	3	3	17	23	27
将来利益	-	-	-	10	10
税効果相当額	325	381	440	472	529
負債性資本調達手段等	-	-	-	-	-
控除項目	-	-	-	-	-
リスクの合計額 $\sqrt{(R_1+R_6)^2+(R_2+R_3+R_4)^2}+R_5$ (B)	505	493	486	477	474
保険リスク相当額 R1	187	188	190	191	194
第三分野保険の保険リスク相当額 R8	70	71	71	70	71
予定利率リスク相当額 R2	112	112	113	113	114
資産運用リスク相当額 R3	231	214	202	189	179
経営管理リスク相当額 R4	13	13	13	12	12
最低保証リスク相当額 R7	74	76	78	80	83
ソルベンシー・マージン比率 (A)/(1/2×(B))×100	2,264.3%	2,433.8%	2,570.9%	2,637.3%	2,810.0%

※金額は億円未満切捨てて表示



お問い合わせ先：
ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社 広報・IR部
TEL: 03-5785-1074